

# 経営比較分析表

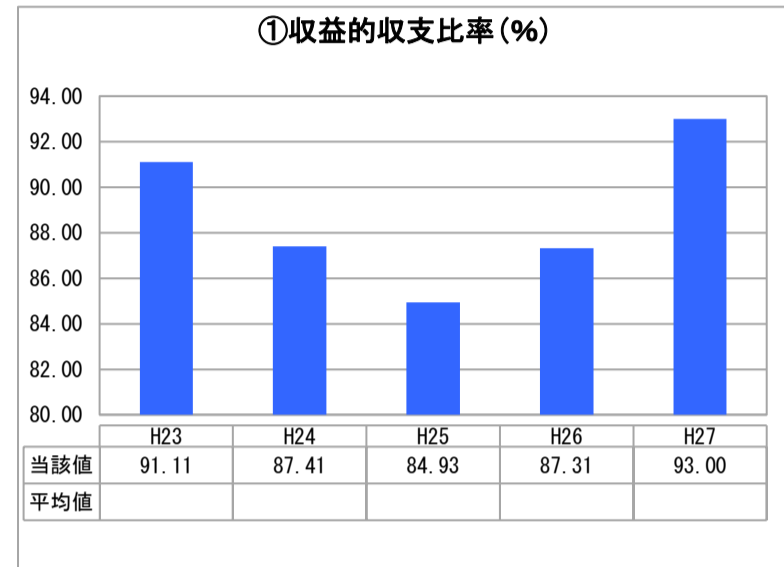
北海道 沼田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	個別排水処理	L2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	17.74	100.00

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
3,258	283.35	11.50
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
569	11.00	51.73

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【】	平成27年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



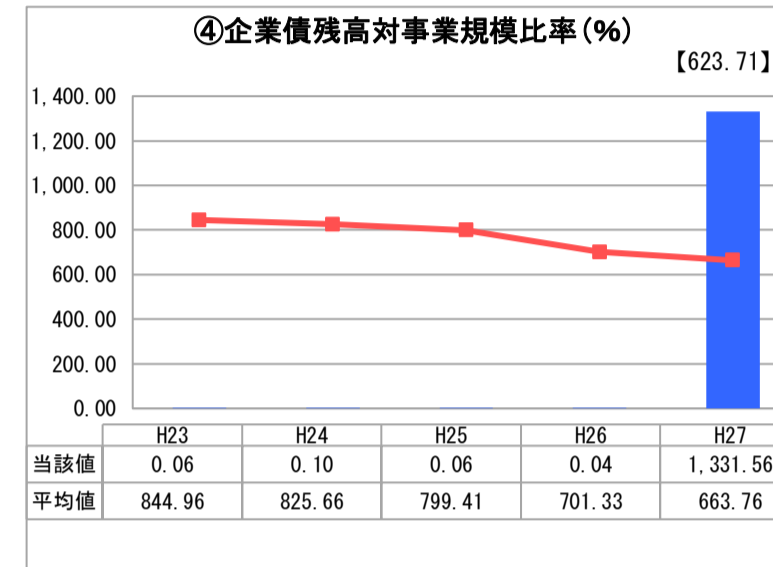
「単年度の収支」



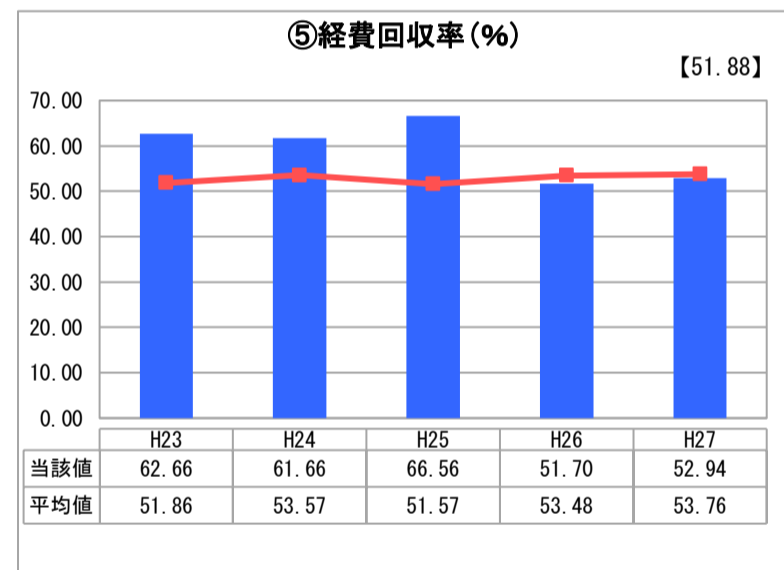
「累積欠損」



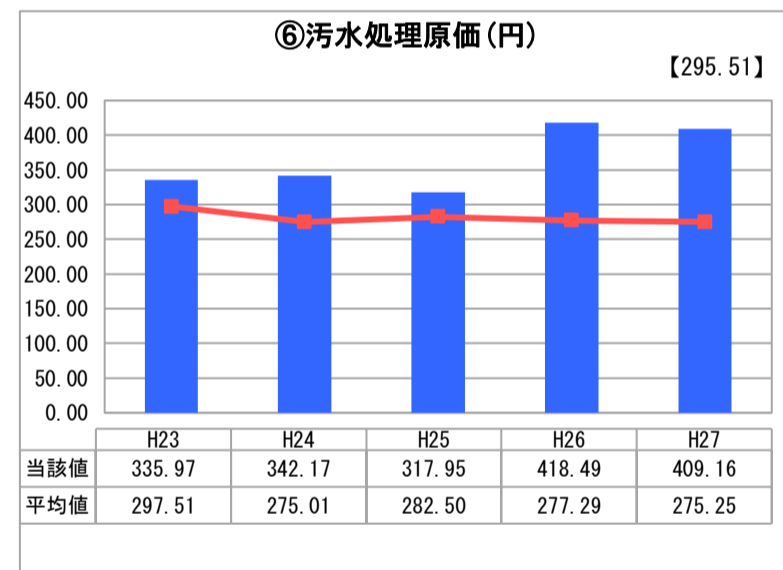
「支払能力」



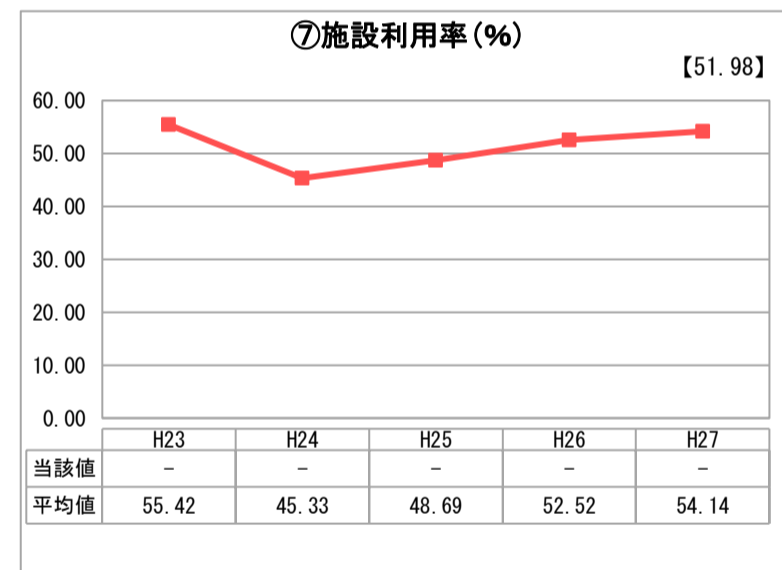
「債務残高」



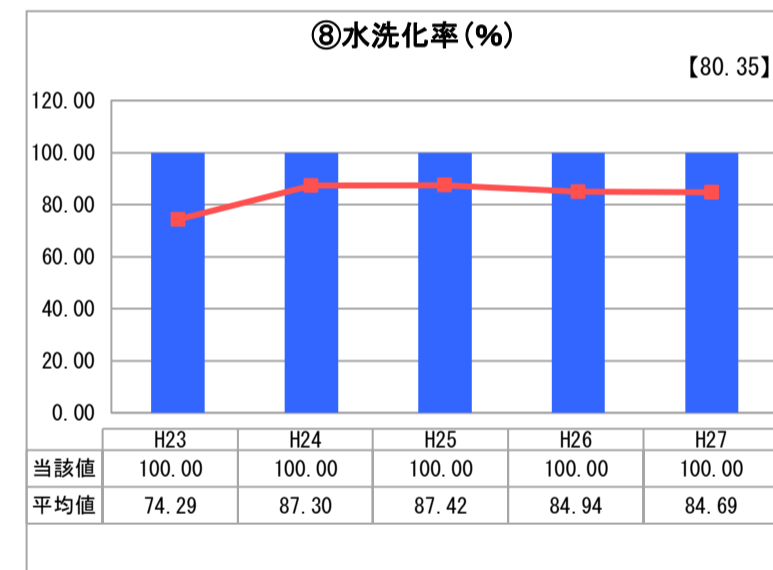
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

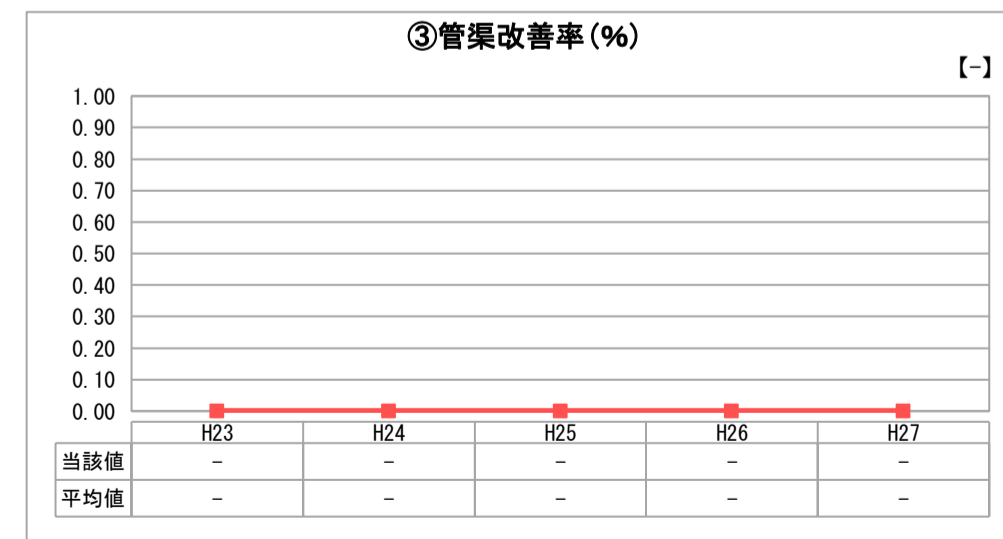
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

現状、個別排水処理施設事業においては、大幅な赤字となっているが広義の下水道であるという観点から特定環境保全公共下水道と同じ使用料体系としている。不足分は一般会計からの繰入を行っている。

### 2. 老朽化の状況について

平成9年度から設置事業を開始し供用を行っている。耐用年数は30年である。平成35年頃には更新が必要な浄化槽もあると見込まれるが、可能な限り長期間使用を前提とする。長期的な更新についても検討する必要がある。

### 全体総括

現状、実質的に赤字経営である。事業毎に独立採算とする原則であるが、下水道使用料と大きくことなる使用料体系とすることは困難である。非常に難しいが長期的な枠組みづくりが必要と考える。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。  
 ※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。